

関 係 機 関 の 長 殿

国立大学法人旭川医科大学長 西 川 祐 司
(公印省略)

解剖学講座（顕微解剖学分野）教授候補者の公募について（依頼）

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、この度、本学では下記のとおり教員の公募を行うことになりました。

つきましては、下記要領により候補者を公募いたしますので、ご多用中のところ恐縮に存じますが、貴学(所)関係者又は関係機関への周知方並びに適任者がございましたらご推薦くださるようよろしくお願い申し上げます。 謹白

記

1. 職名・人員 教授・1名
2. 所属 解剖学講座（顕微解剖学分野）
3. 採用予定日 なるべく早い時期
4. 応募資格
 - (1) 博士の学位又はこれに相当する研究上の業績を有する者
 - (2) 解剖学、特に顕微解剖学領域の教育・研究に関し、十分な経験を有する者
5. 採用方針
 - (1) 学部及び大学院の教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すること
 - (2) 本学において研究を進展させるとともに、後進を適切に指導する能力を有すること
 - (3) 講座を適切に統括・運営するとともに、他部署と教育・研究で協力できること
 - (4) 本学の理念・使命を理解し、大学全体の運営にも積極的に協力できること
6. 応募書類
 - (1) 履歴書（別紙様式） 1部
 - (2) 推薦書（別紙様式） 少なくとも1部
 - (3) 研究業績書（別紙様式1、2、3、4、5） 各1部
 - (4) 主要論文別刷（10編） 各2部
 - (5) 研究費の獲得状況について（別紙様式） 1部
 - (6) 教育実績及び大学運営に関する事項（別紙様式） 1部
 - (7) 教育・研究に関する抱負について 1部
(A4判様式任意、2,000字程度)
 - (8) 特に強調したい実績（A4判様式任意、自由記載） 1部
 - (9) 教員評価結果 1部
(直近3年分、所属機関で実施している場合)

*各書類の様式は、本学ホームページから取得できます。

<http://www.asahikawa-med.ac.jp/index.php?f=adoption+index>

7. 提出期限 令和8年5月29日（金）（必着）

8. 書類提出先

〒078-8510 旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号

国立大学法人旭川医科大学内

解剖学講座（顕微解剖学分野）教授候補者選考委員会宛

（問合せ先：人事課人事第二係、電話0166-68-2124、

メールアドレス sho-jinji2@asahikawa-med.ac.jp）

9. その他

- (1) 年俸制教員として採用し、「旭川医科大学年俸制教員給与規程」が適用されます。
- (2) 本学は男女共同参画に係る取組を推進しており、女性教員の積極的な採用を行っています。このため、本公募による採用に当たっては、能力が同等であれば女性を優先いたします。
- (3) 選考の過程において、教育・研究及び診療に関するお話をお伺いするため、ご来学頂く予定です。なお、その際の交通費等については本学からは支給致しませんのでご承知おき願います。

解剖学講座（顕微解剖学分野）教授に求められる能力と資質

1) 地域固有の問題、本学の使命との関連性

改訂された本学の使命に明記されているように、本学は北海道（特に道北・道東）の地域医療を支えることに重点を置いており、教育の目標において、地域社会へ貢献するための能力を学修成果（アウトカム、コンピテンシー）の一つとして設定している。

上記の本学の使命ならびに学修成果の獲得の重要性を理解し、講座を運営し、教育を担当できること。

2) 研究・教育の役割のバランスおよび責任

講座の最高責任者として、研究および教育のすべての領域においてバランス良く任務を果たせること。

3) 講座のマネージメント能力および大学運営への協力

講座のすべての教職員がその能力を十分に発揮できるよう、健全な仕事環境を醸成することに努めるとともに、他講座と教育・研究活動において協調できること。また、大学全体の運営についても関心を持ち、協力できること。

4) 採用に際しての研究・教育業績の判定水準

研究に関しては、専門領域に関する十分な研究業績を有し、研究を自ら実践するとともに大学院生を含む後進を指導できること。

教育に関しては、学部教育、大学院教育のいずれにも積極的に関わる意欲があり、専門領域の講義を実践した経験が十分にあること。また、共用試験（CBT）の仕組みに関して精通していること。

なお、本学解剖学講座（顕微解剖学分野）では現在、組織学及び骨学の講義・実習を主に実施しています。

注釈：十分な研究業績は、研究成果について公表した論文数や、論文掲載誌のインパクトファクターや論文引用実績から判断される研究の社会的インパクト、研究が獲得した競争的研究資金、創出した知的財産などから判断される研究の社会的必要性や社会貢献度、などから判断します。